

金利（利回り）の事実 （1%の金利差が何を齎すか）

最初に質問。次の設問に真面目に当たって見て欲しい。

【設問1】100万円を金利0.12%複利で運用した場合、2倍になるのは何年後か。（ちなみに10%複利で運用した場合、7年で倍になる）

【設問2】毎月1万円を積み立てるとして、金利（年間利回り）5.5%が約束された場合、30年後元利合計でいくらになるか。また、金利が1.5%の場合ではどうか。

この設問に直ちに答えられたとしたら、その方は金利にかなり詳しくうさい方だろう。大概の人は答えられない。答えられないのは当たり前だからどうということもないが、しかし「金利の威力の大きさ」に気づく必要はある。

正解は次の通りだ（と思う）。

【設問1】2倍になるのに57.7年かかる。

【設問2】5.5%の場合、30年（元本360万円）で917万円になるが、1.5%の場合は454万円となる。

上記答えに「本当？」と疑う方がいるかも知れない。実は正直に云えば、私もこの数字にビックリさせられた。この数字は表計算ソフト（エクセル）を使って出した数字で、このソフトの正しさを信じるしかないが、答えの数字を良く見れば「さもあらなん」と思われてくる。もう一度良く見て欲しい。これが数字の突き付けてくる「金利（利回り）の事実」なのである。

この二つの設問で私が何を表わしたかったかは既にお察しのことと思うが、【設問1】では銀行預金の現状を、【設問2】では年金や生命保険の現状を表わしている。

「安全な銀行預金」に資金を寝かせておけばその資金は全くと云っていいほど増えない。それでも銀行に資金を置くとすれば、それは何故なのか？それは習慣性行動なのか、それとも諦めなのか、はたまた銀行以外に資金を動かす場所が見当たらないからか？判っていることはただ一つ、今の異常な低金利がこのまま続く筈もないが、このままの金利では元本は殆ど増殖しないという事実である。世界最高水準を達成してしまった日本の所得水準は、レベルとしてこれから下がることはあっても上がることは考えられない。これから低下する所得水準を考えれば、金利の事実が突

き付けるものを素直に受けとめなければならないのは自明のことと（私には）思われる。

さてもう一つの問題は、年金と生命保険の利回りである。ご存知のように厚生年金基金や企業適格年金等の年金資産は年利5.5%で運用できることを前提に掛け金が計算されている。生命保険（貯蓄型）も、今でこそ予定利回りは1.5~2.0%程度に下げられているが古い契約は5.5%の利回りを約束して保険料が設定されている。

もう一度【設問2】の答えを見て欲しい。運用金利が1.5%と5.5%では、同じ金額を積み立てても30年後には約2倍の差になってしまう。私の計算では、30年後に5.5%と同程度の元利金にするには、1万円に更に1万円を加えた2万円を積み立てる必要がある。判り易く表にして見ると次の通りだ。

運用金利	積立元金	積立期間	総元利金
1.5%	1万円	30年	454万円
1.5%	2万円	30年	909万円
5.5%	1万円	30年	917万円

別に脅かす訳ではないが、貴方の掛けている年金や生命保険が5.5%での運用が約束されている等と考えてはいけない。貴社で掛けている年金や生命保険も同じで、積立不足が発生していると考えなければならない。約束では5.5%となっているが現実とはなっていないという事態が継続して起こっていると認識すべきなのだ。

上場企業の年金積立不足問題が深刻化しているのは新聞報道でご存知だと思う。会計基準の変更により2001年度から年金の積立不足も開示されるが、現時点で積立不足は上場企業全体で60兆円~80兆円あるとも云われている。この数字の巨きさを実感として理解することは難しいが、この巨額の積立不足は年金資産を年利5.5%で運用できなかつたことを原因としている。積立不足の理由の全てが金利差にあるという事実は注目するに値する。

経済全体が成長していた時代、所得がそれにつれて増えていた時代、そんな時代に金利差を気にすることは賢明なことではなかつた。しかし、巨額の金融資産の運用成果が日本と云う成熟国家の盛衰をも左右する時代となって、1%の金利差にも敏感になることが求められる時代となったのだと思う。貴方はどう思うだろうか。